

令和2・3年度 たくましい“かごしまっ子”育成推進事業研究指定校

伊佐市立羽月西小学校 公開研究会

運動する楽しさや喜びを味わい、 進んで運動に取り組む西っ子の育成

～「つながり」を大切にした取組を通して～



令和3年10月29日（金）

伊佐市立羽月西小学校

伊佐市立羽月西小学校 公開研究会要項

1 研究主題 運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成
～「つながり」を大切にしたい取組を通して～

2 日 程

(1) 受 付 13:25～13:40

(2) 全体会Ⅰ 13:40～14:00
研究発表

伊佐市立羽月西小学校 教諭 岩水 博幸

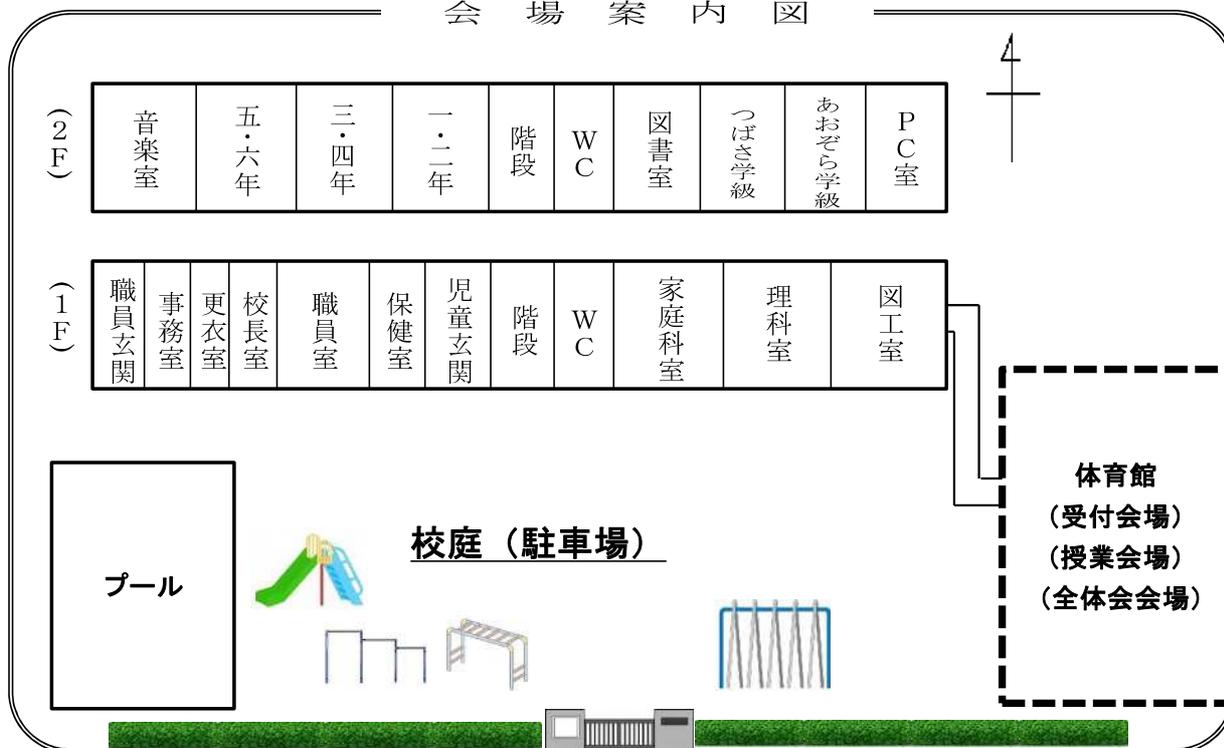
(3) 公開授業 14:10～14:55

学年・学級	単元・題材名	指導者
3・4年	パスをつないでシュートを決めよう！ポートボール	川原 維史

(4) 全体会Ⅱ 15:15～16:15

ア 授業研究・研究協議	進行 伊佐市立羽月西小学校 教諭	川元 仁美
	司会 伊佐市立平出水小学校 教頭	末廣 稔正
	記録 伊佐市立羽月小学校 教諭	原口 修至
イ 指導助言	始良・伊佐教育事務所 指導主事	境 一樹
ウ まとめ	県教育庁保健体育課学校体育安全係 指導主事	中野 正尚

会 場 案 内 図



目 次

あいさつ

伊佐市教育委員会教育長
伊佐市立羽月西小学校長

森 和範
下 蘭 聡

I	研究の概要	1～5
1	研究主題	1
2	研究主題について	1
3	研究の仮説と具体的な取組について	4
II	研究の実際	6～15
1	仮説1(授業改善によるアプローチ)について	6
	(1) 単元の指導計画の作成	
	(2) 一単位時間の指導過程の作成	
	(3) 板書の構造化	
	(4) ICT機器の活用	
	(5) ワークシートの活用	
	(6) 体育ファイルの活用	
2	仮説2(授業外の取組によるアプローチ)について	11
	(1) 体力向上プログラムの作成	
	(2) 「一校一運動」の取組	
	(3) 仲良し体育の取組	
	(4) 体育的行事での取組	
	(5) KOBA式体幹トレーニング	
	(6) 校内掲示(環境づくり)	
3	仮説3(家庭や地域との連携によるアプローチ)について	14
	(1) 家庭との連携	
	ア 生活リズムチェック表の活用	
	イ 長期休業中の親子運動の推進	
	ウ 体育的行事への保護者参加	
	(2) 地域との連携	
	ア 学校応援団の活用	
	イ 地域の人材活用	
III	成果と課題	16～17

終わりに

あ い さ つ

伊 佐 市 教 育 委 員 会
教 育 長 森 和 範

子供たちを取り巻く学校や社会は、新型コロナウイルス感染症の流行やGIGAスクール事業の実施により大きく変化してきています。AIなど情報技術を用いた社会の仕組が一層加速し、ますます将来への見通しがもちにくい時代となっていることを実感しています。

このような中に、時代を担う人材の育成を目指した現行の学習指導要領においては、児童に育む3つの資質・能力を各教科の見方・考え方を発揮しながら育成することが求められており、体育科においては、「運動やスポーツをその価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方」が重視され、一層の授業改善が求められています。

このような時代の要請を受け、伊佐市立羽月西小学校では、2か年にわたり研究主題の下、運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に親しむ子供の育成を目指し研究と実践を重ねてきました。

羽月西小学校の研究は、児童の体力の向上や資質・能力の育成に向けた授業づくりの在り方、学校の日常生活の手立て、家庭や地域との連携の在り方について多くの示唆を与えてくれる研究と言えます。

特に、児童が運動に対する意欲や興味・関心を抱く根幹である単元や一単位時間の授業設計においては、「諸調査結果や個人カルテなど多様な手段を用いた実態把握」「実態を基にした目標や活動設定」「肯定感・達成感を味わわせることができる的確な評価」の視点で、児童が主役の魅力ある単元・授業づくりに取り組んでおり、今後の各校の参考となる取組と言えます。

これらの羽月西小学校の研究実践の成果は、参観された先生方に多くの示唆を与え、諸課題の解決に寄与すると考えています。ぜひ羽月西小の研究を今後の指導に生かしてほしいと切に願います。

最後になりましたが、本研究の公開に向け、これまで教育研究に情熱をもって取り組んでこられた羽月西小学校の校長先生をはじめ、諸先生方に深く敬意を表しますとともに、本日まで御指導をいただきました県教育庁保健体育課、始良・伊佐教育事務所をはじめ関係各位に感謝申し上げます、あいさつといたします。

あいさつ

伊佐市立羽月西小学校
校長 下 菌 聡

本校は令和2年度から2年間「たくましい“かごしまっ子”」育成推進事業推進校として、研究主題「運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成～「つながり」を大切にしたい取組を通して～」を掲げて研究に取り組んできました。本日はここにその成果を発表できる機会を与えていただき、誠にありがたく思っております。

学習指導要領では、新しい時代を生きる子供たちに育成する力を「資質・能力の三つの柱」として整理し、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動する力を付けることにより、一人一人が充実した人生を送ってほしいという願いが込められています。この三つの資質・能力を育成するために、体育科では「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、子供一人一人の適性等に応じて『する・みる・支える・知る』を大切にしたい運動との多様な関わり方について考える」という見方・考え方を働かせる学習過程を工夫することが大切になります。

本校では、運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む児童を育成するために、教科体育において授業を改善・工夫することで子供たちがより多くの楽しさや喜びを味わうことができるようにすること、授業外では年間を通した計画的な課題解決の取組によって子供たちが楽しみながら体力を向上させていくこと、子供の実態や課題を学校と家庭・地域が共有し、課題解決に向けて取り組んでいくこと、さらに全ての活動において、「つながり」を意識した取組を実践してまいりました。子供たちが自分の思いや考えをつなぎ、年間を見通した時間軸でつなぎ、学校・家庭・地域が目標を共有することで日常的な運動習慣の高まりや自己の運動に対する達成感や肯定感が高まることを目指すところです。しかし、まだまだ課題や改善点も多々あります。皆様の御意見・御指導を踏まえ、今後とも研究・授業改善に努めてまいります。

最後になりましたが、この2年間の研究を推進するにあたり、懇切丁寧に御指導・御助言を賜りました鹿児島県教育庁保健体育課、始良・伊佐教育事務所、伊佐市教育委員会の先生方、本日御出席の皆様並びに御協力くださいました羽月西校区コミュニティ協議会、保護者の皆様及び全ての関係者の皆様に、心から感謝申し上げ、あいさついたします。

I 研究の概要

1 研究主題

運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成
～ 「つながり」を大切にした取組を通して ～

2 研究主題について

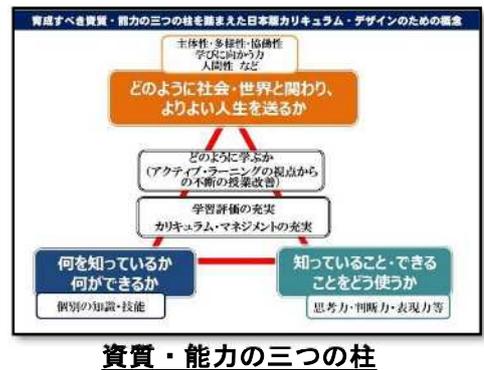
(1) 研究主題設定の理由

ア 社会の動向から

近年、情報化・グローバル化の加速的進展や人工知能（AI）の飛躍的な発達により、社会は大きく、そして激しく変化してきている。進化を遂げたAI、身の回りの多様な機器がインターネットと結び付き、今までできなかったことが簡単にできる時代が到来することが予想される。そのような中で、子供の体力については、近年緩やかな回復傾向にあるものの、1980年代の高かった頃に比べるとまだ低い状況にある。激しく変化する社会の中で、運動する場所や時間、機会が減少し、体力の低下につながっていることが要因と考えられる。子供たちがたくましく成長し、激しく変化する社会の中でも充実した人生を送るために、体力・運動能力を高め、生涯にわたって運動に親しむ習慣を培うなど、心身の健康づくりに必要な知識や習慣を形成する必要がある。

イ 教育の動向から

新学習指導要領においては、新しい時代を生きる子供たちに必要な力を「資質・能力の三つの柱」として整理した。これには、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動する」力を付けて、一人一人が充実した人生を送って欲しいという願いが込められている。さらに、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める際の鍵として、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」という、その教科ならではの物事を捉える「見方・考え方」を働かせた授業を展開することが重要であると明記された。以上のことから、私たちは全ての教科において、この柱に基づいて子供たちの学びを後押しし、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、社会や人生をよりよいものにしていくための「生きる力」を育んでいく必要があると考えた。

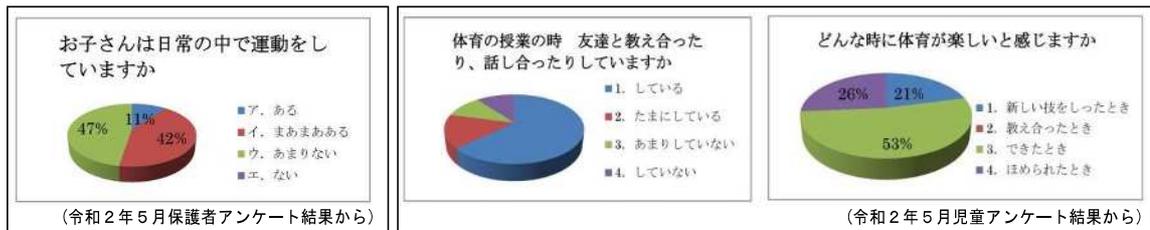


ウ 本校の実態から

新体力テスト（R2年5月実施）の結果より本校の子供たちは、以下の面について課題があることが明らかになった。

本校児童の課題	筋力（握力より）	筋力・筋持久力（上体起こしより）
	柔軟性（長座体前屈より）	巧緻性（ソフトボール投げより）

一方で、敏捷性（反復横跳び）や走力（50m走）、瞬発力（立ち幅跳び）などは全国や県の平均値よりも高い結果を示した。これは、普段から鬼ごっこなど校庭を走り回る遊びを行っていることで、いつの間にか走力や敏捷性の力を付けているが、ボール遊びや遊具遊び等にはあまり行わないために、課題があるのではないかと考えられる。



また、家庭へのアンケート結果より、家庭や地域において、積極的に運動に取り組んでいない子供たちが半数程度いることが明らかになった。さらに子供たちへのアンケート結果より、子供同士で話し合いながら学ぶよさを実感できていない面があることが分かった。このようなことから、家庭や地域と連携して取り組み、友達と話し合いながら学ぶ中で運動することの楽しさや喜びを感じ、主体的に運動に関わろうとする意識を育てていくことの必要性があることが分かった。

(2) 研究主題の解釈

ア 「運動する楽しさや喜び」とは

新学習指導要領においては、「3つの資質・能力」を育成するために、各教科の「見方・考え方」が整理された。体育科では、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、子供一人一人の適性等に応じて『する・みる・支える・知る』を大切に運動との多様な関わり方について考える」ことがねらいとなっている。つまり、様々な運動や競技に対する自己の技能や知識を高めることだけでなく、一人一人の適性や課題に応じて運動にどのように関わっていくのかを大切にしたり、友達や教師などとの多様な関わりを通すことで得られる、運動の楽しさや喜びも大切にしたりすることだと捉えられる。そこで私たちは、この「する・みる・支える・知る」活動を通して得られる、「できた」「おもしろい」「もっとしたい」といった運動に触れたときの感情や、「分かった」「教えてあげたい」「一緒にやると楽しい」などの他者と関わることで得られる感情などの、運動との関わりを通して感じられる肯定的な感情を「運動する楽しさや喜び」と捉えた。

イ 「進んで運動に取り組む」とは

「進んで運動に取り組む」とは、まさしく子供が運動に取り組んでいる時の「前向きな姿」である。例えば、楽しく運動に取り組む姿や仲間と協力し合って運動に取り組む姿、また目標を達成するために粘り強く運動に取り組む姿などが考えられる。私たちはそのような、「運動に前向きな姿勢で関わる」子供たちの肯定的な姿を「進んで運動に取り組む」と捉えた。この「進んで運動に取り組む」姿勢は、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」と、今回改善された体育科の目標を達成するために、必要不可欠な大切な姿であると考えた。

ウ 副題「つながり」に込めた思い

上述した「運動する楽しさや喜び」を感じ、「進んで運動に取り組む」ためには、子供たちが運動にどのように関わっていくことが必要であるか、以下のようにポイントを分析した。

- ① 子供たち自身が課題意識や関心をもって、継続的に運動に取り組むこと
- ② 一人一人がそれぞれの適性や課題に応じて運動に関わる中で、達成感・肯定感を感じる
- ③ 達成感や肯定感を基に、主体的・積極的に運動に関わる

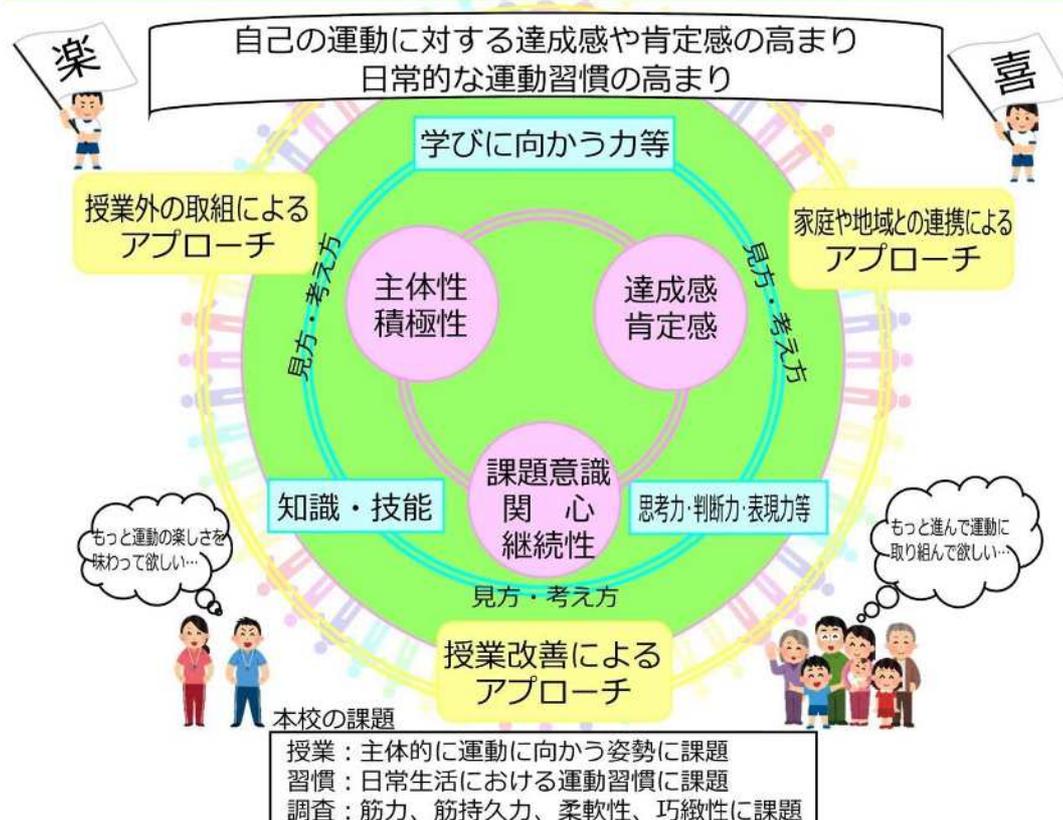
私たちは、子供たちが①～③のポイントを大切にしながら運動に関わることを目指して取

り組んでいけば、研究主題に迫る姿が達成されていくと考えた。さらに、そのための具体的取組の「つながり」を大切にすることが重要だと考え、研究テーマの副題に『「つながり」を大切にした取組を通して』と付し、次の3つの視点について整理し取り組んできた。

- (ア) 子供たちが自分の考えや思いを「つなぎ」、関わり合いながら学ぶ授業を目指すこと
- (イ) 運動や健康、体力テスト等の課題解決に向けた取組を、年間を通し授業外で「つなげて」いくこと
- (ウ) 学校・家庭・地域が子供の目標や学校の目標を共有し、三位一体となって「つながり」取り組んでいくこと

(ア)は、主に授業におけるアプローチ（仮説1）に関する内容であり、①子供同士が関わり合いながら課題解決を図るように積極的に働きかけること、②みんなの考えや思いを共有しそれらを基にして課題解決を図る授業を目指すことをねらいとしている。(イ)は、主に授業外のアプローチ（仮説2）に関する内容であり、子供の課題や目標に対して、日常的な働きかけを通して、粘り強く課題解決を目指し取り組んでいくことをねらいとしている。さらに(ウ)は、主に家庭や地域との連携によるアプローチ（仮説3）に関する内容であり、家庭や地域との連携をより一層図っていくことで、運動に関わる子供の意識や取組を向上させたり、子供の運動の習慣化を推進させたりすることにつながっていくことをねらいとしている。このように研究主題に迫るために、私たちの目指す道筋や目標を細かに分析して整理し、それに対する3つの視点からの具体的取組を「つなげる」という意識をもち、実践するようになった。

運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成 ～「つながり」を大切にした取組を通して～



(3) 目指す子供像

研究主題「運動する楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む西っ子の育成」に迫る子供の姿について、さらに以下のように具体的な姿を設定し、実践を重ねてきた。

場面	学年	目指す子供の具体的な姿
学校	低学年 運動する楽しさに触れる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精一杯体を動かし、目標に向けて意欲的に運動に取り組む子供 ・ 順番や決まりをよく守り、友達と仲良く運動する子供 ・ 自分が考えたことや工夫したことを、友達や教師に伝えながら運動する子供
	中学年 運動する楽しさや喜びに触れる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の課題を見付け、課題解決に向けて最後まで諦めずに運動に取り組む子供 ・ 課題解決に向けて、互いの違いを認めたり、友達と協力したりして運動する子供 ・ 自分の考えや工夫したことなどを友達や教師に伝え、自己の考えをより深く理解し運動する子供
	高学年 運動する楽しさや喜びを味わう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の課題を見付け、課題解決に向けて取組の方法をよく考えて全力で運動に取り組み、達成感や肯定感を味わう子供 ・ 自己や仲間の課題解決に向け、仲間の考えや取組を認め、仲間と互いに助け合いながら運動する子供 ・ 自分や他者の考えていることなどを伝え、相互の考えをより深く理解し運動する子供
家庭・地域	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康や安全に気を付け、様々な運動に、保護者や地域の方々と楽しく運動に取り組む子供
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康や安全に気を付け、自分で取り組みたい運動を選択したり工夫したりして取り組む子供
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康や安全に気を付け、自分の課題解決に向けた運動を選択したり工夫したりして、継続的に運動しようとする子供

3 研究の仮説と具体的な取組について

〈仮説1〉授業改善によるアプローチ

教科体育において、全体を見通した単元のデザインや一単位時間の指導過程を構築し、授業を工夫・改善していくならば、運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む子供を育成できるのではないかと考えた。

子供たちが意欲をもち継続的に運動に取り組むためには、まずは教科体育の授業において楽しさや喜びを感じさせることが大切である。そのための手立てを講じ授業改善を図っていくならば、子供たちがより多くの楽しさや喜びを味わうことができ、進んで運動に取り組む子供を育成することができるかと考えた。

具体的な取組	「つながり」の意識
① 単元の指導計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の運動意欲向上や達成感の獲得へつなげる ・ 実態等を適切に把握し、学習効果や教育活動の質の向上へつなげる
② 一単位時間の指導過程の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した主運動（運動量）へつなげる ・ 「体育科の見方・考え方」を働かせ、「3つの資質・能力」を踏まえた学習へつなげる
③ 板書の構造化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の主体的で積極的な運動や思考の活性化へつなげる

④ ICT 機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を見付け、その解決に向けて主体的に関わることへつなげる ・ 仲間と対話・協力し課題を解決する学習へつなげる
⑤ ワークシート の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 達成感や肯定感を享受することへつなげる ・ 意欲をもって次時の活動へ向かう意識をつなげる
⑥ 体育ファイル の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己課題を明確にもち、継続的な課題追究へつなげる ・ 達成感や肯定感の獲得につなげる

〈仮説 2〉 授業外の取組におけるアプローチ

生活の中において、一人一人の体力の課題を常に意識させ、様々な体力づくりの活動や手立てを工夫していくならば、運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む子供を育成できるのではないか。

子供一人一人の課題は、子供によってそれぞれ違う。授業以外の様々な活動においても、常に課題を意識させ、そして課題解決に向けてアプローチしていくことができれば、達成感や肯定感につながり、進んで運動に取り組む子供を育成できると考えた。

具体的な取組	「つながり」の意識
① 体力向上プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体の計画的かつ組織的な体力向上に向けた取組へつなげる ・ 体力向上に主体的に関わろうとする子供の意識の向上につなげる
② 「一校一運動」 の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちの主体的な運動、運動の習慣化へつなげる ・ 「縄跳び」を通した運動することでの達成感・肯定感の獲得につなげる
③ 仲良し体育の 取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間と共に運動する楽しさや喜びを獲得することにつなげる体力づくり ・ 自己の体力や体の状態に応じた取り組み方を知ることにつなげる
④ 体育的行事へ の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育行事に主体的、積極的に関わろうとする意識につなげる ・ 目標や課題を明確化し、主体的に取り組む姿勢や達成感・肯定感につなげる
⑤ KOBA 式体幹ト レーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な運動への取組、運動の習慣化につなげる ・ あらゆる運動やスポーツにおける技能向上につなげる
⑥ 校内掲示 (環境づくり)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的に運動に取り組む姿勢の向上につなげる ・ 運動意欲の向上につなげる

〈仮説 3〉 家庭や地域との連携によるアプローチ

家庭や地域との連携推進を図り、家庭や地域での運動に親しむ機会を充実させていくならば、運動の楽しさや喜びを味わい、進んで運動に取り組む子供を育成できるのではないか。

子供を取り巻く環境は、学校生活だけではなく、家庭や地域での環境も影響力がある。進んで運動に取り組む子供の推進を図っていくためには、学校における取組だけでなく、家庭や地域との連携、つながりは大きな力になると考えた。

具体的な取組	「つながり」の意識
① 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の実態について保護者が知ることにつなげる ・ 学習したことの習慣化や家庭(親子)での実践化につなげる ・ 学校と家庭が課題を共有し、共に解決に向けて取り組んでいこうとする姿につなげる
② 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供たちの運動意欲の喚起、積極的な運動への取組につなげる ・ 運動することの充実感や達成感につなげる

II 研究の実際

1 仮説1（授業改善によるアプローチ）について

(1) 単元の指導計画の作成

子供が課題意識や関心をもって運動に取り組んだり、運動を通して「できた」「楽しかった」というような達成感や肯定感を味わったりすることにつながるため、単元の指導計画を3つの手順で作成している。

具体的には、「①実態を明確に捉える」→「②実態を基に目標や具体的な活動を設定する」→「③評価の在り方を考える」の順序で指導計画を立てるようにしている。

実態把握については、子供たちの日々の授業の様子や新体力テストの結果、事前アンケートなどを基に実態を捉えるようにしている。指導計画は（図2）、単元の目標達成に向けた内容設定となるようにするとともに、実態把握を基にして学習の効果や教育活動の質が最大限に高まり、十分な運動量が確保できるように配慮している。また、場の設定やルールの工夫、苦手意識の改善、指導する内容の順序やより運動に取り組むことができる時間等も考慮して、子供が生き生きと活動できるように工夫している。

評価（図1）については、「3つの資質・能力」と「体育科の見方・考え方」から子供の学びの姿を整理・具現化したものを作成し、単元の中のいつ、どの場面で、何をどのように見取るのかを指導計画の中に明示している。その

際、教師が確実な評価ができることを踏まえ、1単位時間の評価の観点を絞ることで、正確に読み取り、指導に生かすことができるようにしている。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力	主体的に学習に取り組む態度
する	② いろいろな高さのボールを片手、両手を使ってはじくことができる。 ③ 飛んできたボールを片手、両手を使って相手コートに返球することができる。 ④ ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。 ☆ 飛んできたボールをキャッチして打つことを認める。	① 人数、コートの広さ、プレイ上の緩和や制限、得点の仕方などの規則を選んでいく。	① ソフトバレーボールに進んで取り組もうとしている。 ④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。 ⑥ 周囲を見て場や用具の安全を確かめようとしている。
みる		② 自分たちのチームに合った簡単な作戦を選んでいく。	
支える		③ ボールをはじくときや、ボールに体を向けたり、操作しやすい位置に移動したりすることについて考えたことを、動作や言葉、絵図などを使って友達に伝えている。	② 規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。 ⑤ 用具の準備や片付けを友達と一緒にしている。 ③ 友達のことを認めようとしている。
知る	① ソフトバレーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。		

【図1：評価例(3・4年ネット型ゲームにおける学びの姿)】

時間	1	2	3(本時)	4	5	6	7
過程	つかむ	挑戦するⅠ		挑戦するⅡ		確かめる	
1 準備運動	どんなゲームか知り、めあてを立てよう。	ボールを上手に操作して、みんなでつなぐキャッチソフトバレーボールを楽しもう。		チームで作戦を選んで、ボールがつながるゲームをみんなで楽しもう。		キャッチソフトバレーボール大会をしよう。	
2 めあての確認		みんなが楽しめるゲームになるように、ルールを工夫して楽しもう。					
3 学習の進め方・単元の流れの確認(VTR視聴)		1 準備運動(体幹トレーニング) 2 きらきらタイム	【挑戦するⅠ】○直上パス ○かべパス ○対人パス 【挑戦するⅡ】○ネットパス・キャッチ ○サーブ&サブ				
4 約束の確認		3 めあての確認(ICT) ・つなぐためのボール操作の仕方【2時】 ・つなぐためのルールの工夫【3時】	}【4時】		3 めあての確認(ICT) ・つなぐための作戦の選択 ・つなぐためのルールの工夫		3 めあての確認 ・キャッチソフトバレーボール大会
5 きらきらタイム(感覚づくりの運動)の確認		4 見通し		4 見通し	4 見通し	4 見通し	4 見通し
6 試しのゲーム		5 挑戦Ⅰ(こつ発見/ルールの工夫) ・パス・キャッチゲーム		5 挑戦Ⅰ ・作戦の選択、練習 ・キャッチソフトバレーボール①		5 大会(ICT) ・子供と子供 ・子供と応援団 ・子供と先生	
7 整理運動		6 話し合い ・ボールの方向に体を向ける、ボールの落下点に移動する ・ボールを操作しやすい位置に移動する ・コートを広くする、バウンドなしは点数が増える等		6 話し合い ・作戦の反省・選択、練習		6 整理運動	
8 振り返り		7 挑戦Ⅱ(こつを基にしたゲーム/新ルールでのゲーム) ・円陣パス・キャッチゲーム(ICT)		7 挑戦Ⅱ ・キャッチソフトバレーボール②(ICT)		7 まとめと振り返り	
9 単元のめあての確認		8 整理運動		8 整理運動 ・ボールの方向に体を向けるとすぐに動けた。 ・受けやすい場所に動くと上手にそう作できた。 ・友達のかげ声でやる気が出た。等		8 単元の振り返り	
評価の視点	③・⑥(観察)	④(観察・ICT) ⑤(観察・ボード)	①(観察・カード) ①(観察・カード)	②(観察・ICT)	②(観察・ボード) ⑤(観察・カード)	③(観察・ICT) ④(観察)	①(カード) ②(観察・カード)

子供一人一人の様子からの実態把握

実態を基にした目標や活動

評価内容と評価場面の明示

【図2：課題意識や関心をもって取り組み、達成感や肯定感を味わうことを目指した単元の指導計画の例(3・4年ネット型ゲーム)】

(2) 一単位時間の指導過程の作成

子供たちが主体的に運動に関わり、達成感や肯定感を充実させるためには、体育科における一単位時間の授業を充実させることが不可欠である。

そこで、本校では、子供の十分な運動量を確保しつつ、「体育科の見方・考え方」を働かせ「3つの資質・能力」を育成すること、活動を通して子供が「できた」「わかった」を感じられる学習となることを意識し、一単位時間の指導過程についてポイントを明確にして、共通実践している。

	過程	主な学習活動	共通実践事項(★)及び指導上の留意点
ひきつけよう	つかむ・見通す	1 運動の準備 (道具・場)	★ 授業前に鉛筆を1本体育ファイルにはさんでおく。筆箱からの出し入れはしない。
		2 準備運動 体幹トレーニング	★ 座って話を聞くときは、体育座りをする(全体を通して)。 ・ 授業前に子供がしていても、運動で使う部位を中心に再度行う。 ・ 各種運動での技能向上をねらい、体幹トレーニングを取り入れる。
		3 <u>きらきらタイム</u>	・ 主運動につながる運動を中心に取り入れる。 ★ 主運動につながるための声かけ、ポイントを大事にする。 (態度的な声掛け:技術的な声掛け=5:5)を意識
		4 <u>めあての確認</u>	・ <u>問題解決的なめあて</u> を設定する。 <u>~ICT活用~</u> 【動画と静止画の適正、意図を明確にして活用を図る】 〔何のために〕(目的意識)という視点を明確にする]
		5 <u>学習の見通し</u>	・ 単元全体の流れ、一単位時間の流れを掲示する。 〔構造的な板書との関わり]
うごかせよう	挑戦する	6 挑戦Ⅰ(ポイントの発見)	・ 試しの活動で、自己(チーム)の課題を発見する。 ・ 子供がわくわくする教材・教具、場、ルール、作戦を構想する。 <u>~ICT活用~</u> ・ 状況によっては、教師が準備した選択肢を子供の選択肢として取り入れてよい。
		7 <u>話し合い</u>	★ 教師の試技(説明)等は最後まで黙って聞く。器具や道具等は触らない。 ・ 自他の動きから課題探究をする。 ・ 「目的」「方法」「ゴール」を設定する。 ・ ワークシートやホワイトボード、板書を活用してポイントをまとめる。 <u>~ICT活用~</u>
		8 挑戦Ⅱ(ポイントを基にした練習)	★ 子供の考えを引き出すコーディネートを心がける。教師が話しすぎない。 ・ 運動時間をできるだけ確保する。 ・ <u>よかった動き等は、積極的に紹介する。</u> <u>~ICT活用~</u>
なっとくさせよう	確かめる(生かす)	9 整理運動	・ 運動で使った部位を中心に行う。
		10 <u>振り返り(成果・課題の共有)</u>	・ <u>自己の伸びを実感できるように、全体で価値付ける。(楽しかった→できた→こつに気付いた、作戦がうまくいった、ルールがよかったなど)</u> ・ <u>本時の伸びを全体で称賛する。</u>
		11 学習の後片付け (道具・場)	★ 教師は、子供の体育ファイル記入をペンでチェックする。 ★ 発表者の方に体を向ける。

※ 「ひきつけよう」「うごかせよう」「なっとくさせよう」は、「伊佐市授業改善ポイント」の共通実践事項
 ※ _____は、「運動好きな子供を育てる授業を目指して(留意点)」の項目
 ※ _____は、さらにその重点項目
 ○ 各領域の運動によっては、この通りにならないところもあるが、_____の部分については、意識して授業に取り組んでいく。

【図3:「運動好きな子供を育てる授業を目指して」(鹿児島県教育委員会保健体育課)を参考に整理した本校の一単位時間の指導過程】